

平成30年度 第2回役員会議事録

開催日：平成30年5月12日（土）10：00～12：30

場 所：国際交流センター

出席者：敬称略

黒須重富、久芳良則、宮下治、谷口雅昭、新井達雄、金澤政和、松原 猛、
井本郁子、川上寛児（9名）

委任状出席者：

福田一郎、篠原正美、亀田則男、西谷元則、黒川昌司、稲葉 茂、萩原弘美(7名)

1. 年次大会(H30年6月9日)の運営について

配布資料（平成30年度 年次大会・講演会・新合格者歓迎会・懇親会次第）をもとに各自の当日の役割分担および事前準備事項を確認。（黒須支部長）

補足確認事項等；

- ・監査報告は黒川氏とする
- ・組織会員が1団体増えた。（県庁技術士OB会）約30人
- ・議事次第は記念講演者のお名前等を加えて宮下氏作成。
- ・招待者のお名前を確認後 本部のA4封筒で郵送。県の招待者は手書きで対応。黒須氏確認後、担当の金澤氏へ
- ・新合格者歓迎会について、ホームページで広報する。（西谷氏へ依頼する）
- ・領収書 新井氏

2. 29年度決算報告

決算書および予算書の説明。今年度の赤字 40万であったが、大きな原因は旅費交通費の支給を行ったことによる。収入の伸びがない限りこの支給の継続は不可能である。そもそもは日韓技術士交流会での余剰金を財源としているが、年間で40万近く費用が必要なので、継続は困難。（黒須支部長）

1) 旅費の支給をどうするか審議。

29年度については支払う方針とすることとする。

とりまとめと支払いは各委員会の委員長が行う。

以下はその場での論議。

- ・日当はすこしでもあったほうがよい。
- ・なくてもよい、特に市内からの参加者の場合は不要なのでは
- ・遠方からの参加者は費用も時間もかかっている
- ・一律に全員にではどうか
- ・一律全員による不参加のものへの支払いは公平感に欠ける

出席していない幹事も多ことなどから今後については継続審議とする。

2) 29年度決算 30年度予算の数字について確認

- ・支出の確認、収入の確認を行った。
- 収入の増加に努力が必要（黒須）
- ・総会までに数字の修正と項目の整理を行って報告書および計画書とする
（黒須氏、新井氏）

3. 事業計画

1) フェスタMy宇都宮ー理科教育研究会（川上）

子供を対象にコイルモータ、マグネシウム電池ミニカー、種のグライダー、ソーラーランタンづくりを行う。いずれも人気のプログラムである。

宇都宮市から経費が概ね支給される。

中央生涯教育センター2階で 5月20日 10時から開催される。

環境支援小委員会、理科教育研究会から10名（登録スタッフ）が参加する。

会員の来訪をお願いする。

ミニカー40台、 コイルモータ 60台、 ランタン 40個、 グライダー100程度。
8時半集合（スタッフ）

2) 企画研修委員会一見学会（宮下）

見学会対象地について探している。

ガス発電、廃棄物処理センターの発電施設、下水処理センター、最終処分場、
栃木県運動公園 などの提案があった。

見学会はRCCM、 CPDの点数の取得に効果的であり、積極的に取り組みたい（宮下）

4. 組織の見直しについて（黒須）

各委員会からの提案（配付資料参照）に沿って黒須支部長から説明がなされ、討議された。実行にあたっては、予算計画等との整合を図る必要があり、実際の移行には時間をかける必要があるものもある。現在の案を踏まえながら継続審議とする。

1) 全体の部門構成

- ・総務部門（総務・企画研修・広報）
- ・事業部門（企業支援）； 企業への支援 と 技術士への支援
- ・公益部門（国際委員会、地域社会貢献委員会、地域企業支援小委員会、地域支援小委員会、環境支援小委員会等）
- ・上記の部門に沿って、委員会の性格を明らかにする必要がある。

2) 総務委員会

事務所の管理運営の円滑化が課題

（会員名簿、メールアドレス管理、事務所管理、文書管理）など課題は大きい。

会員はみな仕事がありながら活動をしているため、総務へ負担がかかりすぎないように分担をすることが必要。例えば、年次大会運営は皆で役割分担をしてすすめる。

- ・会員名簿一整理する必要があるが、情報が入りにくいと言う課題がある。

過去に技術士会HPよりひとつひとつ拾ったこともある。しかし技術士会に入会していない技術士も多く、その整備は容易ではない。（これまでの担当は、福田氏）賛助会員の名簿も確認や修正が毎年必要である。

3) 企画・研修委員会

会員が参加する研修の拡大・充実を図る。

支部収入の拡大につながる講演会、見学会の検討を計る。

企業訪問は交流的な側面が強いので他の企画とは切り離すのがよい。

（企業支援的側面もあり萩原氏に依頼）

4) 企業支援小委員会

篠原氏を中心にプログラムを作成・検討中。

企業・銀行・保証協会等に働きかける。支援される側とのつながりが大事。

5) 国際委員会

現在の化津等の継続。変更課題等はない。

6) 地域社会貢献委員会

名称：地域社会貢献委員会として、下部組織としての小委員会については下記が討議提案された。これらの小委員会は継続活動を要求されるものではなく、ニーズに応じて活動する性格のものもある。

①. 科学技術・理科教育小委員会

- ・理科工作指導者育成
- ・夏休み自由研究テーマ開
- ・フェスタmyうつのみや

②. 中小企業活性化小委員会

企業支援委員会の所管の小委員会が良いとの意見があった。

③. 環境小委員会

- ・再生可能エネルギー
- ・里山・生態系保全

④. 地域振興小委員会

- ・自治体支援
- ・市貝プロジェクト
- ・よささウオーク
- ・余笹川連携ネットワーク

⑥. 大学講座小委員会

- ・作新学院大等

⑦. 災害支援小委員会(新規設置)

- ・災害後の復興支援と考える

以上

役員会書記: 井本 郁子

議事録署名人: 金澤 政和

議事録署名人: 新井 達雄